令和7年度 シラバス

科目名	単位数 (時間数)	学科・学年	担当者氏名
保健	3 単位 (90 時間)	理容科・1 学年 2 学年	天野 成敏
学 習 目 標			授業の方法
理容師・美容師は、頭部や顔部を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業であることから、解剖学や生理学に関する具体的な知識が求められる。そこで、人体の構造や機能について全体的に学び、身体的な健康だけではなく、精神的、社会的な健康を保つために必要なことについても理解を深める。また、皮膚や毛髪に刃物や薬品を使用するという業務内容の特徴から、特に皮膚や毛髪の構造、疾病についての理解を深め、顧客に対して適切なアドバイスができるようになることを目指す。			講義
成 績 の 評 価 方 法			
定期考査 (60 点以上を合格とする)			
教 科 書		副 読 本	
保健 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)		おもしろ生理解剖学 (日本理容美容教育センター) 目でみる からだのメカニズム (医学書院)	

学習指導年間計画 (授業計画)
第1編 人体の構造および機能

【2 学年時】

章	項目	学習内容・目的	履修時数
第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名称 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	<ul style="list-style-type: none"> 人体の構造と機能を理解するための基本的な概念を把握させる。 解剖学的表現の基本的用語とその意味、理・美容師に特に関わりの深い、頭部、顔部、頸部各部の名称について理解させる。 	4
第2章 骨格器系	骨の種類と構造 骨の連結 骨格器系とそのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 骨の構造や連結について理解させる。 身体の支柱である全身の骨格について理解させる。 	5
第3章 筋系	筋の種類とその特徴 主な骨格筋とそのはたらき 顔面筋と表情運動 理容・美容の作業と筋疲労	<ul style="list-style-type: none"> 骨格筋、心筋、平滑筋の違いについて理解させる。 全身の主な骨格筋を把握させ、特に拮抗筋と協同筋については注意深く指導する。 また、理・美容と特に関わりの深い、顔面の筋についてもよく理解させる。 	5
第4章 神経系	神経系の成り立ち 中枢神経とそのはたらき 末梢神経とそのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ニューロンの構成と機能、伝道と伝達の意味について理解させる。 神経系の分類について理解させる。 中枢神経 (脳と脊髄) について構造と機能を理解させる。 末梢神経について構造と機能について理解させる。特に交感神経と副交感神経についてしっかりと理解させる。 	7
第5章 感覚器系	視覚 聴覚 平衡感覚 味覚 嗅覚 皮膚感覚	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの感覚について各感覚器の構造と受容の仕組みについて理解させる。 	4
第6章 血液・循環器系	血液のあらまし 血液循環の仕組み 血液の循環経路 心臓と血管のはたらき リンパ管系の仕組みとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 血液特に血球の種類と特徴について理解させる。 大循環、小循環、門脈循環の仕組みとその機能を理解させる。 リンパ管系の構造と機能を理解させる。 	6
第7章 呼吸器系	呼吸器系のあらまし 気道 肺の仕組みとガス交換 呼吸運動 呼吸器系の保健	<ul style="list-style-type: none"> 気道について把握し、各部の構造と機能を理解させる。 肺の仕組みと呼吸運動について、関連する筋とともに理解させる。 	5
第8章 消化器系	消化器系のあらまし 消化管の仕組み 消化管のはたらき 消化と物質代謝	<ul style="list-style-type: none"> 消化管の構造と機能を理解させる。 機械的消化と科学的消化について理解させる。 各消化腺の仕組みと機能、分泌される消化酵素について理解させる。 	6

第2編 皮膚科学

【1学年時】

章	項目	学習内容・目的	履修 時数
第1章 皮膚の構造	皮膚の表面 皮膚の断面 表皮 表皮と真皮の境 真皮 皮下組織 皮膚の部位差	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の表面について、一般的な構造を理解させる。 ・皮膚の断面が、表皮、真皮、皮下組織という3層で成り立つことを理解させる。 ・皮膚の各層の細かい構造、特徴を理解させる。 	8
第2章 皮膚付属器官の 構造	毛 脂腺（皮脂腺） 汗腺 爪	<ul style="list-style-type: none"> ・毛の構造、成長周期、立毛筋等について理解させる。 ・毛の性状とそれを利用した理容・美容技術について理解させる。 ・各付属器官について、構造、種類、皮膚とのかかわりについて理解させる。 	8
第3章 皮膚の循環器系 と神経系	皮膚の血管 皮膚のリンパ管 皮膚の神経	<ul style="list-style-type: none"> ・血流と皮膚組織の健康、リンパ管系と浮腫について理解させる。 ・知覚神経と自律神経のはたらきについて理解させる。 	2
第4章 皮膚と皮膚付属 器官の生理機能	対外保護作用 体温調節作用 知覚作用と皮膚反射 分泌排泄作用 呼吸作用 吸収作用 貯蔵作用 免疫・解毒・排除作用 ビタミンD形成作用 表情作用 再生作用 毛のはたらき 爪のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・生命維持に必要な不可欠な、皮膚の様々な役割について学習する。 ・皮膚とその付属器官が多種多様なはたらきをしていることで、体を保護していることを理解させる。 ・保護作用が不調になると、皮膚に種々の障害がおこることを理解させる。 ・紫外線の害について知らせ、紫外線を防ぐことで皮膚の健康が保たれることを理解させる。 ・毛や爪も皮膚を保護していること、化粧品をうまく使うため経皮吸収についても理解させる。 	6
第5章 皮膚と皮膚付属 器官の保健	皮膚と全身状態 皮膚と精神 皮膚と栄養 皮膚とし好品 皮膚と体内病変 皮膚の水分と脂の状態 皮膚・付属器官とホルモン 皮膚の保護と手入れ 毛の保護と手入れ 爪の保護と手入れ 子どもたちのおしゃれ による皮膚トラブル	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚のケアを全身と関連した視点で理解させる。 ・現代では普通の食事をしていれば栄養素が不足することはほとんどなく、食べ過ぎが問題となる。栄養をバランスよく摂取すること、そして肥満の防止という観点から栄養について考える。 ・ホルモンが皮膚に与える影響を整理する。 ・皸の原因と予防、ひげそりあとのケア、紫外線カット化粧品の選び方、毛髪と爪のケアについて理解させる。 	6

第2編 皮膚科学

【2 学年時】

章	項目	学習内容・目的	履修 時数
<p>第6章 皮膚と皮膚付属 器官の疾患</p>	<p>皮膚の異常とその種類 皮膚疾患の原因 皮膚疾患の治療法 皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹 口唇の疾患 温熱・寒冷による皮膚障害 角化異常による皮膚疾患 色素異常による皮膚疾患 血管腫(アカアザ) 脂腺母斑 下肢静脈瘤 分泌異常による皮膚疾患 化膿菌による皮膚疾患 ウイルスによる皮膚疾患 真菌による皮膚疾患 衛生害虫による皮膚疾患 感染症の皮膚疾患の予防 毛と爪の疾患 皮膚の腫瘍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理容師・美容師は皮膚疾患を診断、治療することはないが、お客様の頭部、背部など、本人が見えない部位の皮膚病変に気付くことができる職業である。また、伝染性の皮膚疾患に罹患しているお客様を施術することで、疾病の媒介となったり、自身に感染する可能性があることから、伝染性の疾病については深い知識が必要とされるので、特に時間をかけて理解させる。 ・ 良性、悪性腫瘍のおおざっぱな見分け方を理解させる。 ・ 円形脱毛症の精神的ケアとお客様の扱い方を指導する。 	<p>30</p>